



架け橋だより No.4

令和 7 年 1 月28 日
流山市教育委員会指導課
幼児教育支援センター発行

連続的な今を生きるこどもの
よりよい学びや幸福を確かなものに

4月に入園・入学したこどもたちは、友達や周囲の環境に関わりながら、やりたい！見たい！のスイッチをONにし、好奇心に裏打ちされて、創造性や自律性を発揮し、成長して

いる様子が「第2回関連教育研究会」や「保幼児学会」を終えて先生方から報告されています。

ご多用な中、様々な形で訪問をさせていただき、ご協力いただいた関係の皆様には心より御礼を申し上げます。

今後も幼児教育・保育施設では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を目安に、小学校では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性」など“資質・能力”へとつなぎ、こどものよりよい学びや育ち、幸福を確かなものにしていくことを関係各位と共有していきたいと考えます。

幼児教育支援センターでは、下半期も、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」といった“こどもの資質・能力”の育成を中核として幼児教育・保育施設から小学校へと接続させていくことをめざして事業を展開してきました。

①小学校の架け橋期の改善を模索しながら、第2回保幼小関連教育研究会、保幼児学会、子育て相談会を実施

②一人一人のこどもの特性・発達を的確にとらえ、全てのこどものよりよい育ちを確かにするため、環境の構成や調整等について、教職員の支援(巡回相談)

③こどもの変容や成長を連続して引き継いでいく内容と方法の検討

今後も当センターでは、事業の進め方について課題を検討し、工夫改善していきたいと考えています。



幼児期から児童期へと滑らかにつなぐ架け橋カリキュラム —第2回保幼小関連教育研究会から—

冒頭に明快な結論・・・幼児教育・保育施設は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を方向目標として「遊びを通して学んでいくこと」を、小学校では、3観点の「資質・能力」の育成を核とすることで接続できるというお話。講師は、聖徳大学の河合優子教授。

第2回のこの研究会は、昨年7月下旬に開催され、幼・保・小の先生・行政関係者89人

が参加。

ここでは、小学校は教科を通じて「主体性」を、幼児教育は、こどもの「興味や欲求」が実現できるように「環境を構成」というお話がありました。

いずれも「主体性」「興味・欲求」というこども本来がもつ能力を引き出すこと、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に

とらえ、充実・改善に当たることを推進するという重要なポイントが示されました。

講義の後グループ協議が行われ、架け橋期カリキュラム開発や改善への誘いとして「自園・自校の特色」について語り合うことでの気づきを共有しました。

紙面の関係で5グループでの協議についてお伝えします。



★A小学校グループ (1校3園)

幼稚園・保育園(所)が地理的に近いという環境を最大限に生かしているのが特色。

幼保間、幼保小間での交流が多く、身近な小学生に憧れや思いやりを持つ。小学生は挨拶が上手などの意見が出された。資質能力としては、「関わり合い」「伝え合い」「思いやり」「社会性」というキーワードで整理されている。

★B小学校グループ(1校4園)

絵本をコミュニケーションツールとして想像力を伸ばすこと。また、友達が気づいて手を差し伸べるインクルーシブ教育の推進によりコミュニケーション能力を大切にしていること。そして小学校では、お年寄りとの交流を通して思いやり、人権意識の育成を進めていること。

このグループでは、自校園の持つ環境を生かしている点が特色で、栽培活動や絵本の活用・地域の方々や友達との交流を通して、それぞれの資質・能力を育成しようとしている。

★C小学校グループ(1校3園)

子ども自らが考えられるように物と関わることや物の変化を創り出すなど「考える力」と「考えたくなる」場を生み出している園。また、大人が誘導するのではなく、こどもから引き出すような「子ども会議」を活用している園。地域とのかかわりを大切にしている園。また諸行事を通じてのびのびと育てるようにしている園。小学校では、15分単位のモジュール時間を活用したり、多様な子どもたちを前提とした教室環境の整備

に力を入れたりなど、環境の構成に力を入れている。

いずれも思考力や社会生活とのかかわりについての方向目標が共通点として見える。

★D小学校グループ(1校2園)

交流を通して「関わる力」「創り上げる力」を育成する点が特徴。異年齢の中でのかかわりを学びながら、「サークルタイム」でテーマを決めて話し合うこと。考える力の育成を目指すこと。仲間とともに仲間の支えを大切にし、主体的に行動する力を育成すること。小学校では、1～6年生まで縦割り交流をし、遊びを決めて一緒に遊ぶことなど。いずれも友達との関係性の中でかかわる力を学び主体的に行動できるなど、こども一人一人の人間関係づくりに必要な資質・能力を重視している。



活発なグループ討議

★E小学校グループ(1校4園)

自然環境を生かした自然や栽培活動を中核に据えている点が特色。

畑で野菜栽培、ジャガイモ、スイカなどのほか森で虫探しなど。小学校では、自然観察、地域交流、お米の栽培など。食育、栽培、観察活動を通して自然とのかかわりや生命などへの考え方の育成を進めている。

講座の最後に河合先生が紹介くださった秋田県大館市の例を見ながら、今できる「架け橋期」の取り組みとして次の2点をまとめていただきました。

**幼児教育・保育施設は「遊びの本質」
を忘れないような実践を**

**地域の関係者がつながり、気づきと
実践の往還を**

実施後、参加者の皆さんから多くの振り返りをいただきました。

【小学校の先生からの振り返り】

- 幼児教育について学ぶ機会はないので、とても勉強になりました。1年生だからと言って何でも丁寧に教えなければというのではなく、「どうしたい」「どうする？」としてこどもの意見の尊重が大事と感じました。
- 各園とも特色のある活動をされていましたが、どこも活動の中で課題がでてきた時「子どもたちに考えさせ行動させる」ということを大切にしており育てたい資質能力は同じということに気が付きました。
- 架け橋カリキュラムを作成するという話は校内で聞いていましたが、どのように進めるのかわかっていませんでした。
- 小学校で行われる「主体的な学び」これは、幼児教育からつながっていることだと分かりました。
- 今現在小1ギャップに悩んで登校を渋っている児童がいるので、そういうこどもをなくすためにも架け橋カリキュラムが必要だと感じました。
- 同じ教材でもねらいとすることが大きく違うのだと感じました。架け橋カリキュラムでは、2年間でどんなことを学びどんな資質能力を育てるのかをお互いが知っていることが必要だと感じました。
- みんなですること嫌なことでもやってくれ、好きな遊びにつながっていくことから、「嫌だからやらないのではなく、みんなで体験すること」は重要と分かりました。

【幼児教育・保育施設の先生からの振り返り】

- 小学校でやることを前倒しするのではなく、幼児教育でしか培えない力を育て、小

学校につなげるという意識がもっと広がってほしいです。

- 小学校でも「教え込む」「学ばせる」など一方的なものではなく、こども主体の内容が多くなっているのがわかりました。
- 「遊び・生活」は楽しいだけでなく、「発見・学び」が生かされるよう保育の計画、環境構成に一工夫しないといけないと感じました。
- 近隣地域で集まって協議したので、特色について共有や共通意識という側面で収穫の多い協議となりました。



研究協議でのやり取りや振り返りシートの内容は、示唆に富む内容ばかりでした。当センターとして、小学校1年生の教育と幼児教育の相違点に気づき、つなぐことの意義についての共通理解を得つつあるとして、この先の事業の企画へとつなげたいと考えています。

幼児教育・保育施設と小学校をつなぐ重要な視点！！— 保幼児学会から —

当センターの下半期の事業として実施した「保幼児学会」。小学校からの依頼に応じてくださった園に小学校教員及び当センター職員が訪問し、保育見学および話し合いを実施するものでした。

実施は、10月～12月にかけてで、この事業には、小学校19校で、校長等を含めて26名の教員が参加。

当日の5歳児クラスの保育内容として、自由あそび、粘土や折り紙などの制作、運動あそびや劇づくり、動物との触れ合い、リトミック、話し合い活動や運動会ごっこなど多彩な活動の展開がありました。

【保育を展開し保幼の先生方から】

●—制作「クリスマスツリー」—

使う材料はみんな同じですが、表現は各々全く異なり、個々の感性を大事にしながら進めています。(保育所・幼稚園)

●—劇遊びの練習—

こどもたちの話し合いを大切にしながら、題材は子どもたちで話し合っただけで決めました。こどものアイデアや思いが出るようにしています。(保育園・幼稚園・こども園)

●—「発表会」の出し物を創ろう—

こどもの発想やアイデアを引き出す環境を工夫しています。出てきたこどもの発想は、共有しながら基本の設計図を創り、材料や形、材質など段取りまで考えるようにし、コミュニケーション活動を大切にしています。(幼稚園・保育園)

幼稚園や保育園(所)及びこども園の先生方の話から、子どもの主体性や創造性、思考力の芽生え等の「10の姿」を方向目標として、各活動を設定されていることがよく伝わりました。

【見学した小学校の先生から】

●小学校でも幼児教育で学んできたことを伸ばしていけるようなカリキュラムを考える必要があると考えさせられました。

●幼稚園での学びや経験が小学校では十分に活かしきれていない部分があると感じました。



●伝え合いの活動を多く行っていたので、小学校でもそれを引き出す活動を取り入れていきたいです。

●遠足の行き先を決めたり、廃材遊びをしたりとこどもたちが自分で考え、それを実現できる環境が整っており、素敵だと感じました。つながりを意識したカリキュラムが大切と学びました。

●幼児教育で体験したたくさんのことを小学

校教育にいかに関係につなげていくのか、現在はまだギャップがあると感じています。



【保幼見学会を終えて】

各小学校区でのグループ協議では、それぞれのグループの持つ優れた環境を生かして活動を組み立てていることが共有されたことは意義深いものでした。

今後は、諸活動が目指す資質・能力について、こどもの姿を共に語りながら、知り合うことへと歩みを進めることができそうです。

第Ⅱ期 巡回相談から

今年度の第Ⅲ期(1月～3月)には、14園が予定され、令和6年度全体で述べ53園に訪問させていただいたことになります。

この中には、継続して2回、3回と訪問させていただいた園が12園ありました。

さて、第Ⅱ期の相談内容ですが、今回は保育の観察を通じて担任の支援のみならず、園長生や主任の先生の園内の体制づくりやカリキュラム運営についても話題が広がりました。

正解のない指導・支援の方法の探究やことも同士の人間関係づくりを学ぶ一助として、当センターも引き続き努力を重ねていきたいと考えています。

先生方が無意識にやっていることを理論的に価値づけたり、実践している取り組みの意味を心理学的に解明したりし、その結果として先生方の背中を押すことになるようでしたらうれしいです。またその探究がそれぞれの先生の課題解決力を伸ばしていくことにつながっていると信じています。



担当カウンセラーより